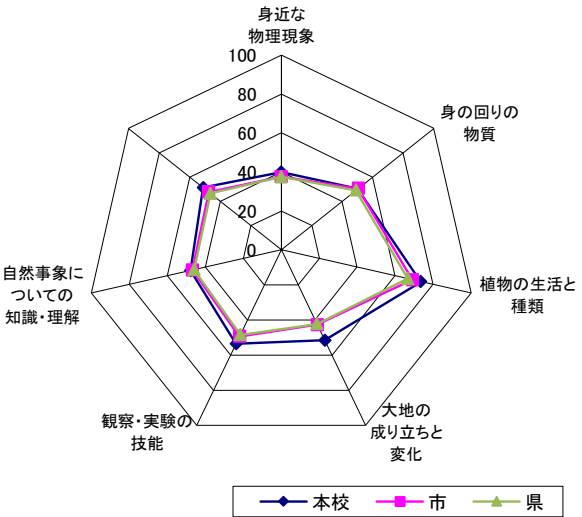


宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	39.9	37.6	37.5
	身の回りの物質	50.2	50.5	49.1
	植物の生活と種類	73.5	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	51.5	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	53.5	49.4	48.5
	観察・実験の技能	47.8	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	51.2	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。「光と音」、「力と圧力」に関する問題では、どちらも県平均を上回っている。 ●「凸レンズを通った光とスクリーンに映る像」に関する問題では、46.7%と県平均を5ポイント下回っている。また「音の高さと波形」に関する問題では、21.9%と正答率が低く、県平均を6.7ポイント下回っている。	・物理分野は、概念が難しくイメージしにくいので、実験や観察・映像の視聴などを通してイメージしやすくする工夫をしていきたい。 ・実験から得られた結果をもとに根拠をもって考察するなど、探究のプロセスに重点を置き、「なぜそうなのか」を考える習慣が身に付く授業を展開したい。
身の回りの物質	○県の数値と比較して平均正答率は上回っている。特に「ガスバーナーの適切な操作方法」に関する問題では66.3%と、県平均と比較して10.3ポイント上回っている。 ●「メスシリンダーの目盛りからの体積の算出方法」、「質量パーセント濃度」に関する問題では、県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率が下回っていることから、公式を利用した計算問題が課題であると考え。	・学習した知識を活用して計算するなどの応用問題につまずきが見られることから、公式を利用した計算などの練習問題を多く扱い、計算方法に慣れて身に付くようにしていきたい。 ・実験を多くとり入れ、実際に自然事象を体験することで、単に暗記する理解ではなく、実感を伴った理解ができる授業を展開する。
植物の生活と種類	○県、市いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に「植物の体のつくりと働き」に関する問題では75.1%と、県平均と比較して10.1ポイント上回っている。 ●「植物の体のつくりと働き」「植物の仲間」の問題では、全体の正答率が高いものの、下位層の正答率がそれぞれ39.7%、42.7%と低くなっており、上位層との差が大きい。	・植物は身近に実物があるので、これまで通り様々な体験や観察を通して、実感をともなう授業をしていきたい。 ・上位層と下位層の正答率に開きがあることから、机間指導や生徒同士の学び合い活動(グループ活動)などを通して、個別に支援をしていきたい。
大地の成り立ちと変化	○県、市いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に「示準化石」に関する問題では66.3%と、県平均と比較して16.9ポイント上回っている。また、「花こう岩のでき方」に関する記述式の問題でも50.9%と、県平均と比較して14.6ポイント上回っている。 ●「火山と地震」に関する問題では、上位層と下位層の平均正答率の差に二極化の傾向が見られる。	・この分野は、他の分野に比べて体験や観察などが十分にできないことも多い。したがって「火山と地震」の分野のように、イメージが湧きにくい自然事象もある。モデルを使って考えるなど、目に見えないことを具体的にイメージできるような授業を展開する必要があると考える。